

海外安全対策情報（2019年4月～6月）

1 社会・治安情勢

ウガンダでは、4月に発生したクイーンエリザベス国立公園での外国人誘拐事件をはじめ強盗や殺人などの凶悪犯罪が恒常的に発生しています。特に夜間に強盗などの犯罪に巻き込まれる可能性が高くなっています。また、女性や子供が被害者となる誘拐・暴力事件も発生しており注意が必要です。

4月と6月にはテロリストがウガンダに入国したとの情報もあり、ウガンダ警察はテロの発生に警戒するとともに人通りの多い場所に長居しないよう注意喚起しています。また、6月にカセセ県で発生したエボラ出血熱においても、最新の情報を入手し警戒する必要があります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 盗難・強盗事件等

ア 邦人被害事案

4月 カンパラ市で車両乗車中に、犯人は半開放の窓から手を伸ばし携帯電話を強奪しました。

カンパラ市内Yusuf Lule Roadにあるショッピングセンター前の歩道で走ってきた犯人に肩掛けの鞆を強奪されました。

5月 自宅で就寝中にどこからか室内に侵入され貴重品を盗まれました。

6月 カンパラ市Ntinda地区において夜間歩行中にいきなり強盗に襲われ財布などの貴重品を奪われ大怪我を負いました。

日中のカンパラ市自宅で留守を狙いパソコン等の電子機器が盗まれました。

イ 邦人以外

2018年の警察年次犯罪報告によると、2018年に390件の現金強盗が発生、合計81億シリングが盗まれました。強盗事件は2017年と比較して増加傾向にあります。

(2) 殺人事件

カンパラ市 (Kampala)

4月27日、Mpererwe地区で武装した6人の犯人は、スーパーマーケットに押し入り警備員を撃ち殺しお金を強奪しました。

6月11日、武装した5人の犯人は2人のモバイルマネージャーエージェントを撃ち殺し、お金を強奪しました。(カンパラ市で銃強盗事件が多発しています)

(3) 強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、近隣国のコンゴ(民)では、4月にISISテログループがコンゴ(民)に拠点を設立しベニ地区では8人のコンゴ民兵と民間人がISISのテロ攻撃で死亡するなどテロ行為が発生しています(ベニ地区はウガンダのカセセ県タウニから約140km西に位置します)。

5月には、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」のメンバーであると疑われる3人がテロ行為を実行する意図でウガンダに入ったと報じられました。

また、6月にはアフリカ地区で開催されるサッカーのアフリカカップの会場においてテロに注意するようにウガンダ警察が警戒を呼びかけています。

このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした子供、女性の誘拐事件が多数発生しております。

邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

ア カセセ県 (Kasese)

4月2日、アメリカ人観光客とツアーガイドが誘拐される事件が発生し犯人は、500,000ドルの身代金を要求しましたが後に逮捕され被害者は無事解放されました。

イ カンパラ市 (Kampala)

4月15日にカムヨキャ (Kamwokya) 地区で1歳の赤ちゃんが誘拐されました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

4月にブイェンデ県で大雨による地滑りで13人死亡、カムリ県でも5人が死亡しています。6月には、カセセ県のマハンガ郡でも地滑りが起こっており自然災害に関しても注意が必要です。また、事務所や自宅への侵入被害が発生していますのでソフトターゲットにならないようにセキュリティがしっかりした建物を選ぶと共に入居後も、侵入が容易な場所はないか定期的チェックし警備レベルの維持と向上に努めてください。

以上